透明塗膜防水材

セブンSS
SS－T 工法

施工要領書

2025年7月改訂版

Seven Chemical
株式会社 セブンケミカル

目次

1. SS－T 工法の標準工程 2

2. 適応下地 2

3. 施工フローチャート 3

4. 注意事項 4

5. 施工上の注意 4

6. 使用材料一覧 5

1. SS－T 工法の標準工程

工　　程		材 料 名	希 釈 （重量%）	所要量 （kg/㎡）	工程時間 （H）	施 工 方 法
1	下塗り	セブンSシーラー	無希釈	0.1	3～24	中毛ウールローラー 刷毛
2	中塗り(1)	セブン SS	水道水 （0～5）	0.4	4～48	多孔質ローラー(中目～極細目) 刷毛
3	中塗り(2)			0.2	16～48	中毛ウールローラー 刷毛
4	上塗り(1) (艶有/半艶)	セブンSトップ M#30	セブン S トップ M#30 シンナー （0～3）	0.1	2～当日中	中毛ウールローラー 刷毛
5	上塗り(2) (艶有/半艶)			0.1	24～最終養生	

※50mm 二丁掛けタイル基準
（吸い込みの多い下地の場合は上記よりも下塗り材の所要量が増えることがあります）

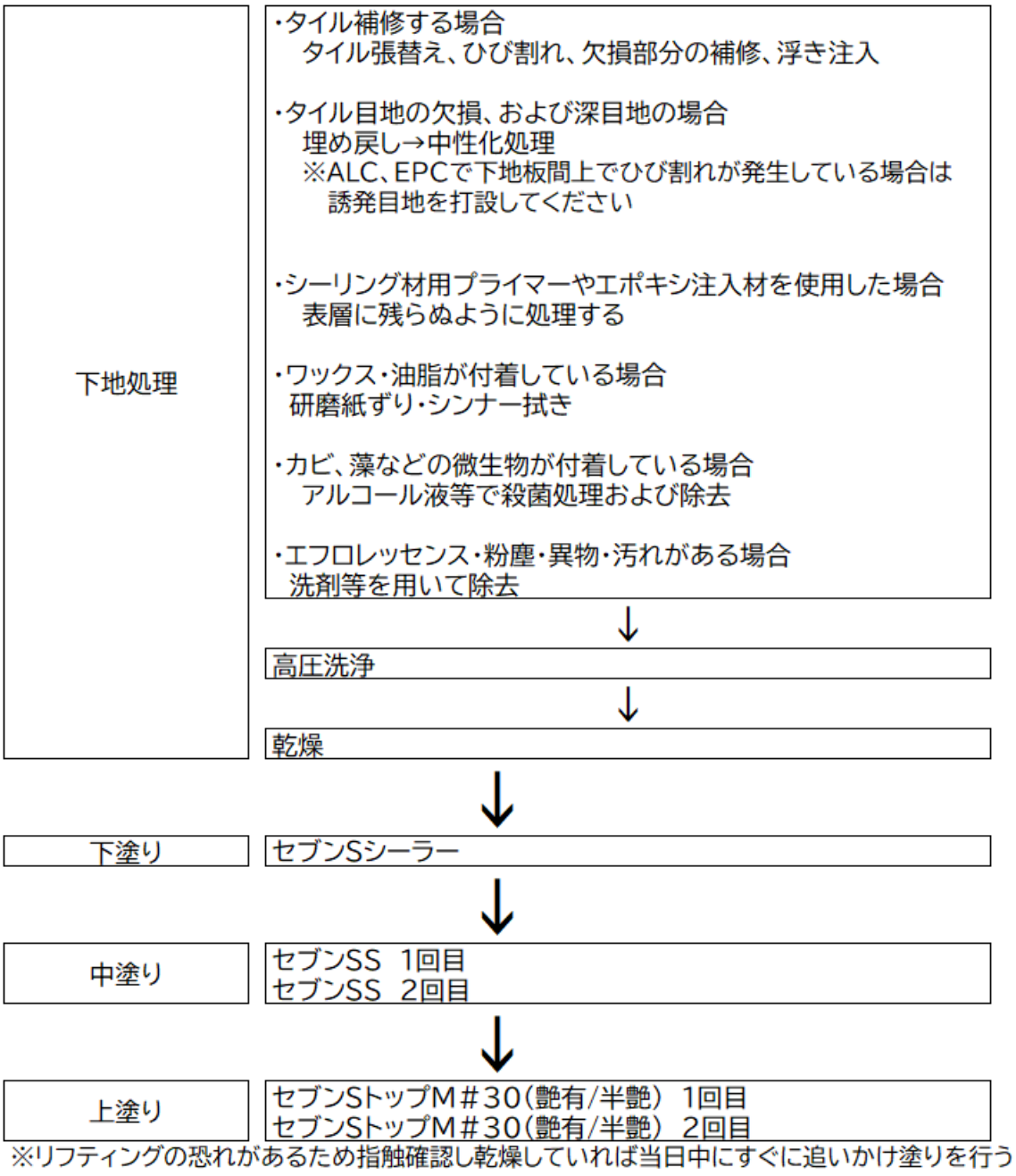
※下塗り/上塗り(溶剤系の塗料)の追いかけ塗りを行う時は、高温だと当日でもリフティングの恐れがあります。指触確認し乾燥していれば当日中にすぐに追いかけ塗りを行ってください。

2. 適応下地

タイル張り外壁面
磁器質タイル
せっ器質タイル

※下地の凹凸の小さい面状を対象とします。
※陶器質タイル、ラスタータイル、光触媒加工焼き付けタイルおよび石材はご相談ください
※仕上げ、および付着性は試験施工を行って確認してください

3. 施工フローチャート



※リフティングの恐れがあるため指触確認し乾燥していれば当日中にすぐに追いかけ塗りを行う

4. 注意事項

（1） 外気温が 5℃以下及び 35℃以上の場合は施工を避ける。
（2） 施工前から施工後にかけての乾燥硬化の過程で雨・結露・霧・雪・霜等が予想される場合は施工を避ける。
（3） 強風の時は塗材の飛散被害・塗付けムラ等の支障をきたすため、十分風養生対策を行うか施工を避ける。
（4） 花壇や擁壁など裏面からの水分供給が予想される部分への施工は避ける。
（5） タイルが接地面（GL）から張られている場合、毛細管現象による地面からの水分の影響を避けるため接地面から 10 ㎝程度は施工を避ける。
（6） シーリング材の上への施工は避ける。
（7） 全面を施工しない場合、取合い部から水分の影響を受けないようにシーリング目地で見切り施工を行う。
（8） 材料は、風雨・直射日光を避け 5℃以上の冷暗所で保管する。
（9） 使用する材料について製品安全データシート（SDS）を事前に入手し、関連諸法令を厳守して施工を行う。
（10）労働安全規則等に定められている安全規則に基づき適切な装具を着用する。

5. 施工上の注意

施工前の下地の洗浄不足、塗膜内への異物の混入、気泡を巻き込んだままでの表層硬化、液溜まりなどにより、意匠性を損なってしまう恐れがあります。下記に注意して施工してください。

（1）下地処理

① 下地の欠損やタイル下地を含むタイルの浮き、ひび割れ箇所などの下地処理を適切に行う。
② 目地が 3mm 以上の深さがある場合はタイルと平滑になるように埋め戻し、中性化処理を行った後に十分に目地モルタルを乾燥させる。
③ シーリング材用プライマーやエポキシ注入材は紫外線により黄変するため表層に残らぬよう処理する。
④ ワックスや油脂などが表面に付着している場合は研磨紙ずり、およびシンナー拭き等によって除去する。
⑤ エフロレッセンス、塵埃、付着異物は洗剤等を用いて除去後、洗浄剤成分が残らないように高圧水洗などを行い、十分に乾燥させる。
⑥ カビや藻などの微生物が生じている場合はアルコール液等で殺菌処理および除去する。

（2）下塗り

① セブン S シーラーは 2 液型塗材のため、基剤および硬化剤をそれぞれ攪拌し均一の液体とする。その後、基剤 13:硬化剤 1 になるように計量し、十分に攪拌する。
② 目地モルタル部分は濡れ色が均一になるように施工する。吸い込みによる濡れ色のムラが発生した場合は必ず当日中に薄い部分にセブン S シーラーの追いかけ塗りを行い、意匠を均一化させて中塗り以降の工程に移行する。

（3）中塗り

① 指触確認し、下塗りの乾燥後中塗りを開始する。
② セブンSS を 0～5%水希釈し、均一に混合する。混合方法は、気泡が混入しないよう撹拌棒などで静かに「の」の字を書くように撹拌する。
③ 多孔質ローラー（中目～極細目）にセブン SSを十分に含ませ、気泡が混入しないように小面積ずつ配り塗り、均一に仕上げる。

※ 高温時の施工や塗継ぎ箇所で気泡混入による白濁する可能性があるため、施工時の下地の温度や塗重ねの時間差に気を付けて施工してください。

(4)上塗り

① セブンSトップM#30は2液型塗材のため、基剤および硬化剤をそれぞれ攪拌し均一の液体とする。その後、基剤11:硬化剤1になるように計量し、十分に攪拌する。
② 気温が高く糸引きする場合や、気温が低く泡含みする場合には、セブンSトップM#30を「セブンSトップ M#30専用シンナー」で 0～3%程度で希釈し、十分に攪拌する。
③ 半艶で仕上げる場合、艶消し材が沈降していることがあるため、混合前にハンドミキサーで十分撹拌し、塗棒、ヘラ等で缶のコーナー部の溜まりもキレイに落とし、良く混合する。
④ 中塗り材施工の翌日以降に乾燥硬化を確認してから上塗りを開始する。
⑤ 上塗り1回目を施工後、指触確認出来たら当日中に2回目の施工を行う。(※1)
⑥ 仕上げ面は、十分乾燥硬化させるよう、24時間以上乾燥養生する。(※2)
⑦ 透明仕上げの為、塗り重ね回数による光沢の差異が生じる可能性があるため、目地部分で見切りながら塗るなどして、塗継ぎの際にラップによる光沢に違いの出ないよう施工を行う。

※1 高温時の施工の際、当日でもリフティングの恐れがあります。指触確認し乾燥していれば当日中にすぐに追いかけ塗りを行ってください。

※2 昼夜の寒暖差が大きい日や高湿度、結露が発生しやすい時期はブラッシングが起きることがあります。施工時の気象条件にはご注意ください。

6. 使用材料一覧

工程	製　品　名	容　量	荷　姿	混合比
下塗り	2液強溶剤アクリルシリコン樹脂 セブンSシーラー	14kg ｾｯﾄ (基剤 13 ㎏/硬化剤 1 ㎏)	石油缶	基剤:硬化剤 13:1
		4kg ｾｯﾄ (基剤 3.72 ㎏/硬化剤 0.28 ㎏)		
中塗り	1液水性アクリルシリコン樹脂 セブンSS	14kg	石油缶	―
		4kg	ポリ丸缶	
上塗り	2液弱溶剤アクリルシリコン樹脂 セブンSトップ M#30 艶有・半艶	12kg ｾｯﾄ (基剤 11 ㎏/硬化剤 1 ㎏)	石油缶	基剤:硬化剤 11:1
		3kg ｾｯﾄ (基剤 2.75 ㎏/硬化剤 0.25 ㎏)		
希釈	セブンSトップM#30 シンナー	16L	石油缶	―
		4L		

株式会社 セブンケミカル

東京都港区芝公園 2-4-1 芝パークビル A 館 12F
TEL 03(6809)2597　FAX 03(6809)2598
https://www.seven-chemical.co.jp